

Interview

ペット業界のはたらき方
～私の場合～

Vol.8

動物看護師が描くこれからの働き方

くみ動物病院 動物看護師主任

新谷 政人先生



Profile

2006年
2006年～2012年
2012年
2012年
2015年

2015年～
2017年～

2018年
2018年～2019年
2018年～
2019年～

シモゾノ学園大宮国際動物専門学校卒業
東京都下町の動物病院勤務
くみ動物病院勤務
認定動物看護師取得
JAHTA ケーナインリハビリテーションセラピストベーシックライセンス取得
日本動物看護職協会 代議員
シモゾノ学園 国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校 学校評価委員
RECOVER CPR BLS&ALS 取得
シモゾノ学園大宮国際動物専門学校非常勤講師
Cvp- 獣医療のプロが集まるコミュニティ特別講師
ルネサンス・ペット・アカデミー 教育課程編成委員

Q. 動物看護師になろうと思ったきっかけは？

幼稚園の時から家に犬と猫がいる環境で育ち、その大切な家族（ペット）が何も出来ずに亡くなってしまい無力さを痛感しました。その経験などを繰り返すうちに「動物の命を助ける仕事をしたい」と思うようになりました。幼いときは動物の命を救う仕事＝獣医師という仕事しか知らなかったこともあり、獣医師を目指し勉強をしてきましたが、高校で進路を決める時に学力的に難しいことが解り、高校の進路相談の先生からは、理系の4年制の大学に進むように勧められました。

どうしても動物に関わる仕事がしたい！何か他の職種がないかを動物関係の仕事の雑誌を見て探している時に「動物看護師」という職を見つけ「これだ！」と思いきや専門学校へ見学に行きました。本格的に専門学校入学の意思を決めて進路を高校の先生に相談した際に先生から「動物看護師なんて男性がやってく仕事ではない、男は家庭を養わないといけないし、専門学校じゃなくて大学に行きなさい。」と言われました。当時は動物看護師という仕事が全然知られていなかったこともあり、その時の言葉は当時の自分には残念に感じたのを今でも忘れられないです。

でもその時の先生に「動物看護師の仕事を一生涯やっていくつもりです。自分がやりたい仕事はその大学では学べません。だから大学には行きません。」と伝えました。その先生にはずっと会ってはいませんが、もし今、会えたのなら、動物看護師で家庭も持って道が開けているということを話したいと思っています。この高校の時から「人から言われる固定概念」で自分自身の人生を左右されることに疑問を持ち、「誰もやっていないなら自身で道を切り開こう」と思い始めるようになりました。

Q. 専門学校の非常勤講師など色々な分野に携わっていますね。

はい。母校で先日まで看護実習を教えていたのですが、想定されているカリキュラムのなかで自分がアシストすることが難しくなりでいったん講師の仕事は終了しました。まだまだ学生さんに色々教えてあげたいこともあったのですが、今は別の立場からでも動物看護師として働こうとしている人に対して何か力になれるような事に協力していければと思っています。学生の中に学べることはごく一部かもしれませんが、自分が学生の時に比べたら教科書や実習内容は確実に進歩しています。

この業界に動物看護師という職業はこれからますます必要になってくると思います。誰にでもできる仕事ではなく、専門性が高い仕事だと思っていますし、動物看護師は獣医師の補佐だけでなく、動物看護師ならで



はの目線を持ちできる仕事が沢山あると思います。今後の動物病院では特に獣医師の指示に従うだけでなく、お互い意見を出し合っ
ていい獣医療を作っていくことが理想ですし、獣医師と動物看護師が協力して最高のパフォーマンスをすることで職場の活気が増え、飼
い主さんや動物が安心してくれる病院ができるのだと思います。院内の雰囲気が悪いとそれが飼い主さんや動物に伝わり、いい医療が
提供できなくなると思っています。一人で出来る仕事ではない！チーム医療として「認め合う精神」や「コミュニケーション能力」が重要
な職種と感じています。

Q. 動物看護師として意見を言う時にどんな事を大事にしていますか？

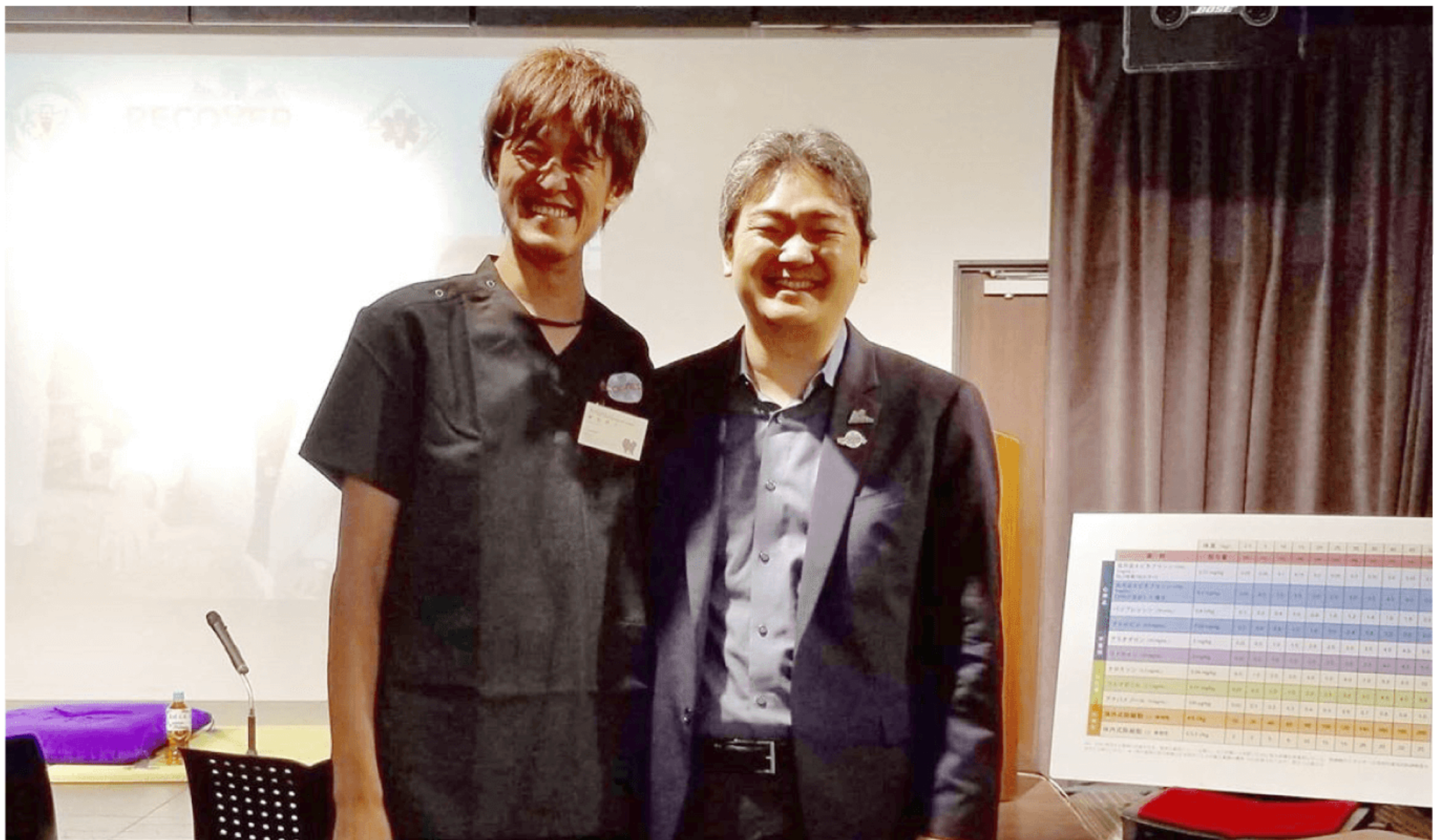
アウトプットを大事にしています。動物看護師から獣医師になにか意見をいうのは、誰しもとても勇気がいることだと思います。た
だ、セミナーなどを外部で聞いてきて、病院にとって、これはとてもいいことだと思った時に、きちんとアウトプットを作って病院の
スタッフに解りやすくプレゼンをするようにしています。その時に色々な人に意見を聞くことで、自分がやりたいことが現実
に近づくのだと思います。やってみて失敗することもあると思いますが、失敗は次へとつながることにもなりますし、知
っているのと知らないのでは医療の現場では咄嗟の判断もだいぶ違いますからね。セミナーでの気づきと実践を繰り返
し、その病院なりにできることを少しずつでもやっていけばいいのかなと思います。

それがどんなに小さな1歩でも日々成長していく事は大切なことだと思います。学んだことで無駄なことはなく、知識は自分の財産
となりいつか力に変えてくれる大切な原動力になると思います。

Q.RECOVER CPR の認定証をお持ちですね？

はい。世界基準の心肺蘇生～獣医蘇生再評価運動(RECOVER)を広めている RECOVER Initiative Japan(現在)の米国の RECOVER に準じた Web 講習と実習プログラムをクリアして認定証をいただきました。

たまたま、学会でそのアルゴリズムを考えたアメリカの動物看護師の八木さんと知り合うことができ、動物看護師を続けていくうちに自然と「アメリカの動物看護師のように働きたい」という気持ちが芽生え、多くの業務の中でも救急に興味を持ち、学会や獣医・動物看護師雑誌を含めた本を読み勉強をしていましたが、CPA(心肺停止)時に勉強してきたことだけでは救ってあげることが



出来ず、「動物の命を救ってあげたい」と思ったことは裏腹に、飼い主さんの悲しむ姿、亡くなってしまった大切な家族(ペット)の姿を見るたびに、本当に今の心肺蘇生を含めた流れや準備等が正しいものなのか疑問に思っていたころ RECOVER CPR に誘って頂きました。当時動物看護師(現在は動物看護師も受講可能です)は実習には参加できない条件でしたが、彼から特別に招待をして頂き実習を受講することが出来ました。実習では最後に試験があり、当時は5～6人のチームで1頭の動物を助けるという人形を使った実地試験に取り組みます。その時の自分以外の参加者はほとんど獣医師だったので、前の日に寝られないくらいに緊張しました。実施試験で自分の能力を発揮するためには、周囲の獣医師の動きをよくみて、動物看護師として出来ることを対応しなければと心掛け、自分のチームは合格することができました。

その時指導していただいた救急医の先生方や参加していた先生方と交流があり、救急医の先生方とは、現在一緒に動物看護師ならではの視点で RECOVER 実習のサポートさせていただいています。最初はこの試験を受けることをとても悩みましたが、勇気を出してやってよかったと思います。

自身が RECOVER CPR を受講しようと思ったきっかけは、八木さんからのこと一言でした。

「動物看護師として出来ることを証明して欲しい」このようなことはほんの一步ですが、日本の動物看護師もアメリカの動物看護師みたいに、獣医師と対等に意見を言い合っ、いい獣医療に取り組んでいける未来がきつとくることを日本の他の動物看護師にも知ってもらいたいです。

アメリカと日本では出来ることに違いはあるとは思いますが、動物看護師としての目線で獣医師をサポートし、飼い主さんや家族(ペット)の為に RECOVER CPR を通して出来ることを学べたと思っています。

Q. 動物看護師の働き方について

動物看護師の人たちの多くは、動物や飼い主さんにとっていいことをしたいという気持ちで働く方が多いと思いますが、働き続けるうちに業務が多岐に渡り、だんだん、「今の仕事は楽しい」というよりは「言われた業務をこなす」ことがメインとなり、なぜこの仕事をしているのかが理解できず、モチベーションが上がらないケースが多いと感じます。そのようなスタンスだともし動物看護師が国家資格になった時にその責任をおえるようなスキルが身につかないと思います。

国家資格化ということはゴールではなくそこがスタートになると思います。今、日本動物看護職協会など協会が国家資格化に取り組んでいる人たちは、動物看護師達の未来をよくしようとして進んでいます。前には少しずつ進んでいるので、ぜひこの取組みを他の動物看護師は知ってほしいです。全ての動物看護師がやりがいを持ち働けるようにこれからも協会の活動にも力を入れていきたいと思っています。

Q. 家族とマイホームについて

今は別の職種ですが、妻も動物看護師として働いていました。共働きなので、子供ができた後は子供が熱を出したり、体調が悪い時には実家の両親に協力してもらっていました。その頃はアパート暮らしで、家を買う予定もなかったのですが、たまたま実家の近くに新築の建売がでており、子供もいるし、実家の傍に家があったら便利だよなと思って、ふらっと見学してみたことが今住んでいるこの家を買うきっかけでした。その時はまだ、住宅ローンの審査が通るかかわからないけど申請してみたんです。そうしたら医療従事者だったからか、審査が通り住宅ローンが組めて、28歳の時にマイホームを持つことができました。

ずっと、動物看護師なんて「家庭を持つことや、マイホームをもつことは難しいよ」と言われてきたので、自分自身驚いていますが、後になって

みるとそれは固定概念であって、実際やろうと思ったらその概念を打ち破ってできることは沢山あるんだと思います。また、家族ができたことがその原動力になったのでしょうか。土日休みの仕事ではないですし、共働きなので、三人の休みがそろう日がとても少ないのですが、休みがそろった時には、外に食事をしにいたり、テーマパークに遊びに行ったりとなるべくその時間を大切に過ごしたいなと思っています。

またこの職業は結婚したり育児に追われると仕事が好きでもやめてしまう動物看護師の方々を多く見てきました。妻もそうですが、好きでも家族を持つと両立していく事が厳しいのが現状です。子育てをしながらでもスタッフ同士が協力をして働き続けることのできる動物病院が増えていく事で今、多くの動物病院で起きている人手不足の解消のきっかけにもなると思います。



Q. 今後、力をいれていきたいこと

動物看護師ならではの視点を今後も大切にしていきたいです。それは技術だけではなく、飼い主さんに寄り添い不安を取り除き、言葉の話せない大切な家族(ペット)の声となり獣医師と共に全力で支えていく事をこれからも続けていきたいです。

また外部のイベントやセミナーに積極的に参加することで色々な人の意見を伺う機会が増えたので色々な視点を持てるようになったことが嬉しいです。その中でも先ほどお話しした救急という分野はこれからも勉強を続けていきたいと思っています。今後もイベントやセミナーに声をかけてもらった時にはなるべくありがたく参加するようにして、そのような繋がりを大事にしていこうと思っています。色々な人に刺激を受けながら動物看護師という仕事がより良い職種にしていけるように、将来自分の娘が「動物看護師になりたい!」と言ったときに親としてプロの動物看護師として胸を張って勧められるように活動を続け、全国の動物看護師や獣医師と一緒に業界を盛り上げていきたいです。

まだ動物看護師という仕事は世の中からは知られていないのが事実です。少しでも知名度を上げていくために地域のイベントにも積極的に参加して、人から必要とされる職業になるように取り組んでいく事も重要だと思っています。

この仕事は自分の人生をかけてもやる価値のある終わりなき素晴らしい仕事だと思います!仕事も人生も楽しくこれからも沢山のことにチャレンジしていきます!